

< 超音波 >

【目的】筋緊張の抑制・癒着の剥離

【禁忌】血管の疾患（血栓性静脈炎など）・急性敗血症（感染の拡大や塞栓剥れの為）・

放射線療法（少なくとも6ヶ月は禁忌）・腫瘍（成長促しや転移が生じる為）・

心疾患（心臓を刺激する為、星状神経節や迷走神経部位は避ける）・妊婦・成長期の子供の骨端線への照射

【注意点】

対象部位の血流が低下している場合、照射部位面積と強度を適切に決める。

炎症活動期や温度上昇が症状増悪を招く場合は避ける。

炎症鎮静期までは低強度にする。

大量の超音波照射で皮膚に発赤、腫脹、熱感、水疱形成が起こることもあり、 3 W/cm^2 以下でも照射時間が長いと熱感、発赤が生じるが、10分以内であれば出現しない。

対象が温かさを感じたり皮膚のチリチリ感があれば停止する。

3回/週、4週程度で無効なら中止する。

(超音波)



< 低周波 >

【目的】筋収縮の促進・痛みの減少・筋活動の再教育・循環改善(静脈・リンパ・血流)・癒着の防止

【禁忌】心疾患(ペースメーカー)・血栓静脈炎・静脈血栓症・皮膚疾患など

